

地域・地区く反大学・自主講座 大討論集会に結集せよ!!

労働者、市民、学生のみならず。

米帝国主義のカソボツア介入と北爆再開をして以来、新たにインドシナ半島の戦火はより泥沼化している。

日本帝国主義はこのような東南アジアの情勢にあたって、65年以來高度成長(しかし、国民所得は世界19位という矛盾のなかにあつて)以來、海外侵略を援助計画の名のもとに、韓国をはじめ東南アジアへの侵略をなしていた。しかし、米帝国主義のドルーポンド危機による政治的、経済的衰退を契機とし、昨秋の日米共同声明をもって、「沖縄返還」をなした。だが単に「沖縄」が日本国に「返還」され、日本政府が「奪還」したものでない。米帝は、日帝に東南アジア支配の政治的・軍事的支配の肩がわりを要請し、日帝は東南アジアの市場の安定のため、現在の自衛隊の、オ四次防一中曾根案を媒介とし、帝国主義軍隊の確立と同時に、沖縄の東南アジア侵略前線基地化をはかっている。沖縄人民は決して「日本国憲法」への帰属を望んではいない。

過去400年の支配下での苦痛、そして、1951年以來の米軍政下での苦悩は、自からの解放を望む血の闘いであった。

日帝—日本帝国主義のこのような野望は国内にあっては全社会的再編を生んでいる。この再編は教育部門にあっては、大学の専門化を行なうことによる専門バカ—体制奴隷の産出と高度成長を支える技術の産出、小、中、高にあっては教化内容のより強い検閲などとしての中教審、さらにこれらに反対する学生運動の弾圧のための大学立法としてなしている。農業にあっては、食糧会計の赤字累積や政府貯蔵米の減増を表面の口実として、休耕転作などによる米の作付面積の強制的消滅を強行し、さらに基地、空港、工場等の建設のために農地の暴力的破壊をなし農民の生活の破壊をなしている。さらに国鉄の合理化、通信部門における合理化。住宅生活にあっては、企業の団地への押し込み、物価高。これらは同時に政治国家の暴力装置(機動隊)の肥大化、地方自治体への再編、集中として、権力

の支配階級への集中は日々増大している。

我々は、この間、中教審答申—大学立法粉砕、教育の帝国主義的再編—全社会的再編に反対し、その極として「帝国主義大学」解体の思想をもつにいたった。だが「大学解体」の闘いは前述のあらゆる領域の矛盾と関連していることを知った。

矛盾、そして、我々を疎外、抑圧している本質は何か!!

我々は全ての人民と共に闘わねばならない。その為、今日まで大学内で閉鎖的に行なっていたく自主講座を我々は大胆に地区、地域における個々の諸問題の討論の場、深化の場、そして(世界)を見る場として、全ての労働者、市民、学生の結合場所として位置付け、ここに地区—地域く反大学—自主講座を討論を、その第一歩として提起し、結集して下さるよう呼びかけました。

政府に従うものには一個のアメを、反乱するもの—自立する者には驚愕のアメをくくるのは、それは誰だ!!

呼びかけ人

- 生田地区共闘会議
- 明大助手共闘会議
- 明大生田共闘会議
- 和光大地区—地域く反大学—自主講座実行委員会(準)

5/16日(土) P.M. 1:00

地区・地域く反大学—自主講座

討論集会 [同時に映画]

1回目 和光大学小講堂
(鶴川駅下車 徒歩15分)

21日(木) P.M. 1:00

地区・地域く反大学—自主講座

2回目 明大生田にて